

講義録

生きるよろこび、そして豊かな老いへ  
— 発達に障がいのある青年たちとの34年の音楽活動から学んだこと —

水 本 誠 一

The Joy of Living and Looking Forward to a Rich Old Age:  
Lessons Learned from 34Years of Music Activities with Challenged Youth

MIZUMOTO Seiichi

---

神戸女学院大学 人間科学部 心理・行動科学科 准教授

連絡先：水本誠一 〒662-8505 西宮市岡田山4-1 神戸女学院大学  
人間科学部心理・行動科学科

mizumoto@mail.kobe-c.ac.jp

○水本 皆様こんにちは、改めまして心理・行動科学科の水本です。どうぞよろしく願いいたします。

シリーズのテーマは「老いること、生きること」ということですが、私のほうでは、「生きてるよろこび、そして豊かな老いへ」というタイトルでお話しさせていただきます。

ただいまの紹介にありましたように、私は34年前からライフワークとして発達に障がいのある人たちと音楽活動をしてきました。その活動を紹介しながら、34年間続いてきた背景といますか、なぜ、どうして続いてきたんだろうといったことについて考えていくことを通して、生きている喜びであったり、あるいは、これからやがて誰しもが迎える老いというものに対する備えといますか、豊かな老い、について、みなさんと一緒に考える機会になればいいなと思っております。

進めさせていただく前に、4月16日熊本で大きな地震があり、たくさんの方が亡くなられました。少し黙禱をさせていただければと思います。よろしいでしょうか。

それでは、お願いします。

(黙禱)

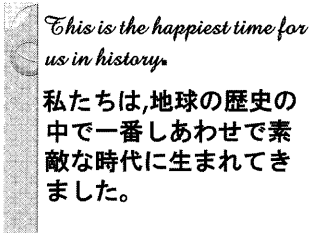
○水本 ありがとうございます。

私ごとですが、5月3日に熊本に行く予定にしておりました。こういう事態になりまして、もちろん、それは中止になりました。親族の中に少し被害の出た家がありましたが、さいわい大きなけがもなく元気にしてるということで安心しました。

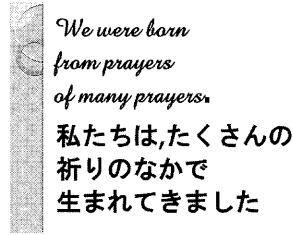
そんなことがあったからというわけではないですが、私たち、日々こうして生きてることが本当にありがたいことだなと思います。

34年前に発達に障がいのある人たちとのご縁をいただきました。人生を楽しもうという、ささやかな思いから、東野洋子さんが音楽グループ（楽団あぶあぶあ）をつくったのが始まりで、私はそのお手伝いをするという役割からの始まりでした。

当時は、そういった活動がほとんどなくて、1年もつたらいいねとお母さんたちは思っていたようです。そのつながりが、1年たち、2年たち、10年後に、楽団とともにミュージカルチームも結成することになり、今日に至っています。二つの活動を振り返りながらお話を進めさせていただきます。



スライド1



スライド2

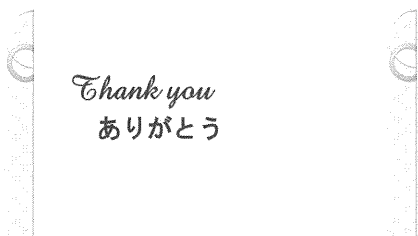
何枚か、英語と日本語のスライドが続きます。楽団あぶあぶあ、ミュージカルチーム LOVE の公演の冒頭、途中、それから最後に、こういったスライドを映写します。実は、これが私たちが続けてきた活動のコンセプトといますか、(メンバーの人たち) みんなが大切にしていることでもあります。

最初に、“私たちは地球の歴史の中で一番しあわせで素敵な時代に生まれてきました”というコメント(スライド1)。最後にもこのコメントを流しますが、たくさんのお会い、そして、音楽活動を楽しんでいる私たち、不自由なく生活している私たち、地球の歴史の中で一番幸せな時代、という感謝の気持ちから入ります。

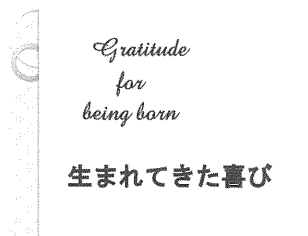
次のこまは、“私たちはたくさんの祈りのなかで生まれてきました”(スライド2)。このような思いがオリジナル曲へとつながっていきます。決して私たちは一人じゃない。時に一人ぼっちかなと思うことがあっても、きっとどこかで、そっとほほ笑んでくれる人がいるんだよと。だから、今度は私たちも、そっとほほ笑んでいる人になりたいという想いと感謝。そういったみんなの思いが、最初に少し流れていた「With You Smile」という歌につながっていききました。

それから、いつもみんなの言葉から出るのは、「ありがとう」という言葉です。強制したわけでもなんでもなくて、みんなが集まっているいろんな活動をしていく中で、いろんな出会いがあって、その中でいつも出てくる言葉が「ありがとう」という言葉です。

そしてミュージカルの舞台は、“生まれてきた喜び、生きているよろこび”というシーンに展開していきます。(スライド3, スライド4)

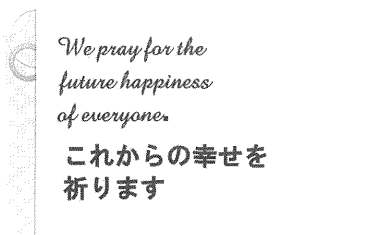


スライド3

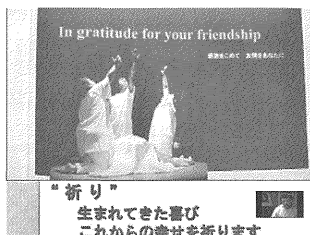


スライド4

そして、“これからの幸せを祈ります”というメッセージでミュージカルは完結します。(スライド5)



スライド5



スライド6

幕としては、“祈り”が最初に出てまいります。生まれてきた喜び、これからの幸せを祈ります、ミュージカルはこのシーンから始まります(スライド6)。

障がいがある人々にとって、こういったシーンには、非常に深いものを感じるねと言っていただくことがあります。お母さんのインタビュー場面が映画の中にありますので、それをちょっとピックアップして見ていただきたい

と思います。(あぶあぶあの奇跡／2008 (株)アズマックス製作)

「楽団あぶあぶあ」の中でマリimba、ビブラフォンを演奏している彼は、知的程度(障がい)では一番重いと評価されています。その彼が音楽を通して人生を楽しんでいく姿を、今日ご覧いただくビデオを通して注目していただければと思います。

(ビデオ) シーン①：自宅でマリimbaを弾きこなす一男さん(以下一男)のシーンから、一転一男が乳母車にいる幼児期の写真を背景に母親のインタビュー。「生後40日目に保健所に連れて行ったんです。そのとき先生が、ああ気の毒なね、ああ気の毒なねって言うんです。何言ってるのかなと思ったら、この人は風邪でもひかしたらイチコロですよって。女の先生。ねえ言いようがあるでしょ……。私それ聞いてびっくりして、初めて大学病院に行って、ダウン症いうものの、もう一生どんなになっても障がいは障がい、知能は遅れてるし…。もうほんとにわかった時は死にたい想いでした。こんなに、音楽に出会えるなんて考えてなかったから、そらもう天と地ほど違うから…。シーンは一転、聖路加国際病院名誉院長日野原重明先生より招かれ、トリフォニーホール(東京)で1801人の人たちを前に演奏する楽団あぶあぶあ&ミュージカルチームLOVEの演奏会へ(写真1、写真2)。



写真1 日野原先生とのリハ風景(2004.9.24)



写真2 本番風景(9.25/トリフォニーホール)

○水本 少しずつ、何分かずつにご覧いただきます。

(ビデオ) シーン②：マリimbaを始めた頃の練習風景/姉や東野との練習風景他

母親：うちは姉がおりまして…教えてて、ここがわからんの、何回弾いた…そしたら一男が、僕は頭が悪いからここ（頭）こっつんしてって言うんですよ私ずっと泣いてた。私が姉にそんなに言うんやったら、もうやめって言ったら（一男が）お母さん言わんといて、僕が悪いから、僕が覚えるからって…。そして全体練習の場へ（写真3、写真4）。



写真3 一男さんと姉の練習風景



写真4 うまくいかずうなだれる一男さん／東野

○水本 今、マリimbaを弾いていた細越さん、昔（練習を始めたころ）の様子も見てほしいと思います。

（ビデオ）シーン③：楽団あぶあぶあの合同練習、上手くついていけない一男の個別練習をじっと見守るメンバー、苦心惨憺の末うまくいきだすと満面の笑顔とともに自信たっぷりの仕草を見せる一男（写真5、写真6）。



写真5 一男さんと東野洋子の練習風景



写真6 自信たっぷり、満面の笑みの一男さん

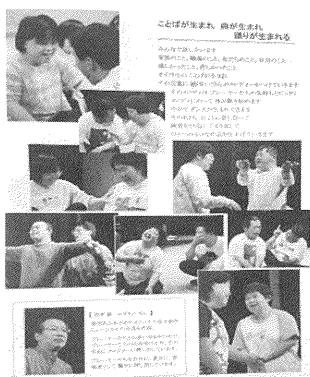
○水本 ごらんいただきましたように、一人一人が得意な楽器を持ち寄って始めたわけでは決してなくて、たまたまそれぞれで用意できる楽器を選んで始めたということです。ですから、彼（一男）はもともとうまく演奏できていたというわけではありません。特に彼の場合は、本当に一日も休むことなく

て、毎日ずっと練習をする。それは一日でも休むと覚えたところを忘れてしまうということを自分で知っているからで、もちろんマリンバが好きなんです。そんな毎日の練習から始まりました。

1曲を完成するのに大体1年ぐらいかかるという、そういう状況でした。そういう状況が何年も何年も続いても、なお、やっぱり楽しみながらできるのは、どこに、どんなことがあるからなのでしょう。引き続き（ビデオを通して）ご覧いただきながら一緒に考えていこうと思います。お母さんたちの変化にも注目していただければいいなと思います。

今のシーンの中に、お姉ちゃんが少し登場してきていました。映像だけを見るとすごく厳しくて、そんなお姉ちゃんと弟という関係に映りますが、実は、これは裏話ですが、お姉さんは“自分の弟を理解してくれる人でないと結婚しない”という想いから、初めてのデートのときに弟を連れていったという、私たちの中では知られているエピソードがあります。深く弟のことを考えていたお姉さんなんです。

ここ（スライド）では、「言葉が生まれ、曲が生まれ、踊りが生まれる」と（コメントを）つけています。後でも少し触れますが、普通ミュージカルには、まず台本があって、練習が始まって、舞台をつくり上げていくということでしょうけど、私たちのミュージカルは、そうではありません。言葉が



**言葉が生まれ**  
**曲が生まれ**  
**踊りが生まれる**

スライド 7

生まれて、曲が生まれる。そして踊りが生まれていくんです。そんな場面を、18年間帯同しておられた映画会社さんがたまたま撮りためた部分がありましたので、是非見ていただこうと思います。

○水本 私たちのミュージカルは、すぐに練習が始まるのではなくて、集まったら30分ぐらい、いつもお互いに話をします。練習と練習の間にあつたいろんなこと、自分たちの好きなこと、いろんなことを報告したり聞いてもらったり。あるとき、ワープロを習い始めたという千穂さんが、手紙をつくって持ってきました。自分で読みたいということからこのシーンは始まります。

(ビデオ)「洋子さん、私たちのミュージカルは新しい人生と思う。どんな人生でも、悲しいことやつらいことはあるけど、でも自分の中では、素直になって、何でも正直で、今の私たちは輝いてる。新しいこと、何かはじめようと思うし、もっともっと明るい笑顔で、楽しく今のミュージカルをしていこうと思う。笑顔でミュージカルをしたほうがいいと思うし、お客さんも喜んでくれると思う。私たちのミュージカルは新しい人生です。それが私たちの今の気持ち…。せいさんのような優しい大人になって… (写真7)。優しい人になるって難しいかなあ (写真8)。



写真7 言葉が生まれ／手紙を読みあげる千穂さん



写真8 優しい大人になるって／東野洋子



写真9 曲が生まれ／新曲『今の気持ち』誕生



写真10 踊りが生まれる／一男 & 千穂



○水本 こちらはフェスティバルホールで開かれたときの様子です。このときには、たくさんのプロの方たちにも応援していただいて、こちらはソプラノの方です。（『今の気持ち』熱唱シーン）

決められたこと（台本）を決められたとおりにというのが普通ですが、私たちの場合はそうではなくて、一人ひとりの言葉の中から曲が生まれてくる。そこには自分たちがつくってるといふ思い、その自分たちの気持ちが踊りに現れてくる（表現）、一人ひとり、自分たちが中心になっているんだという思いが創作の段階から、だからここまでつながってきているんだと思います。

創りあげていく過程で、いろんな意見が出たりしますが、お互いに認め合うことがすごく大切なことなんだろうと思います。自分たちで、一人一人気持ちを伝えて、そして、お互いを認め合うということ、そのことの尊さといひますか、すばらしさを感じ、そんなみんなのやりとりを聞きながら、言葉をつなぎ合わせていくうちに、メロディーが浮かんできて、曲にしていくというのが私の役割です。

ただ、私はあまりピアノが上手じゃないので、実は先週からピアノを習いに行ってます。新しいひろがりになればなと思ひて、うち（大学）の方に教えていただける教室があるので、少し恥ずかしかったんですけど、意を決して通い始めました。自分のつくった曲を自分ですらすらと弾けるようになりたいなと思ひて行きだしました。これは、ちょっと余談ですが。私自身のこれからの人生を少し豊かにしていくために頑張ってみようかなという思ひもありまして。

ミュージカルの話に戻ります。先ほども言ひましたように、一人一人の意見が違ひていて、異なっていて、ともすればみんなの意見をどこかで集約してしまいたくなるときもあるのですが、そうじゃなくて、そのことについてみんなで話し合っていく。私たち（スタッフ）が決めてしまうのではなくて、ということ（展開）がもっている意味（自分たちで決めていくという主体的姿勢と同時にお互いの尊重）が、彼ら、彼女たちの中に育まれてきたのだと

思っています。そんな場面をご覧いただきたいと思います。

今から随分前になりますが、明石大橋ができたときに、その記念式典（朝日新聞社主催）に私たちも出させていただきました。開通記念曲として「With You Smile」という曲が生まれました。この曲にあわせて、明石大橋でみんながパフォーマンスするとき、どんな振りつけにするんだということになりました。いろんな意見が、そんなシーンです。ちょっと見ていただければと思います。

（ビデオ）うはらホール（東灘区）での練習。両手を挙げ左右に振るパフォーマンス、ゆっくりふるか、リズムカルにふるか、智子の提案はリズムカルに。

今回は時間がないうえ、みんなができるゆっくりタイプにしようということになったのだが…。「私は自分の心から考えてやっていた」と真剣なまなざしで説明する智子（写真11）、今回はゆっくりにしようと話しかけるメンバーたち（写真12）、不満げな顔つきだった智子だったが、練習が始まると智子の顔に笑顔が（写真13）、本番：大勢の人たちを前に大成功（写真14）。



写真11 自分の心からと説明する智子さん



写真12 なだめる一男さんたち



写真13 納得！笑顔で踊り出す智子さん



写真14 開通記念コンサート（明石大橋）

このようにして生まれた「With You Smile」は、その後、音楽の教科書に採用され、今も全国で歌われている。

○水本 一人ひとり、お互いの気持が違うとき、その違いの中で起こる、ともすればトラブルになりがちな場面を、彼女たちは仲間のきずなづくり（のきっかけ）にしてしまうというところが、すばらしいことだと感じます。その背景にはどのようなことがあるのか、最後に触れていきたいと思います。

さて最初にも少し話しましたが、音楽の専門家では無く教育心理の専門家の東野が産休の先生の代替としてメンバーと出会い、これからも人生を楽しめたらいいね、一緒にエンジョイしようよと誘いかけたことから、音楽活動が始まりました。

そんなささやかな楽しみから始まった彼らの活動が、少しずつ大きな舞台になっていきました。これは国連の防災会議の歓迎レセプションです。平和大使として呼んでいただいて、140人ぐらいの大使と手をつなぎ楽しんでいる一場面です。（スライド8）

さまざまな支援やサポートをたくさんの方たちからいただきながら活動してきた一人ひとりでしたが、やがてその音楽活動は、社会参加へ、そして社会的な役割を担い、社会的貢献へと変化していきました。その変化（多くの人々と関わり、その喜びを共有する）は、自分たちが社会の中にいるという存在感、意義として感じ取ることになり、やがて、苦勞してきたであろうお母さんやお父さんたちも、彼らの活動の意義、生まれてきた喜びを、一緒に感じながら、一つ一つのステージを体験していったのではないかと思います。（国連防災会議では）彼らの音楽を通して、世界中の人々の平和の祈りを大使のみなさんとつなげ、楽しみました。（スライド9）

こんなに大きなコンサートを開いたり、親善大使になったり、ましてや海外に行くなんてことは考えられなかった、お母さんたちの話の中によくできます。でも、それを実現したのは、スタッフではなくて、彼らなのだろうなど。彼らの持っている音楽メッセージなんだろうと感じます。



スライド 8



スライド 9



スライド10



スライド11

“生きている喜び”、私たちには伝えたいことがあるんだという音楽メッセージができてきたんだと思います。いろんなところでいろんな人と出会って、その関わりの中から彼らもまたたくさんのことを学び、そして彼らの役割もどんどん大きくなっていったんだろうと思います（スライド10）。

こちらは2006年、兵庫県で開かれた国体の後に、引き続きで開催される全国障がい者スポーツ大会の開会式です。震災から10年ということで、井戸知事より、感謝の気持ちを全国に伝えたいんだ、そういうメッセージを発信したいということをうかがいました。私たちは、障がい者だけではなく、大学生や高校生、いろんな人がたくさん参加できるスポーツの祭典にしたいという想いをこめてテーマソングをつくらせてもらいました（スライド11）。どんな歌詞にしよう、みんなとミーティングをすると、「ありがとう」みんなから出た言葉でした。じゃあ、どんなふうに「ありがとう」を伝えるのと言ったら、「100年」と言ったものですから、100年はちょっと僕らが言い続けるのは難しいよという話になって、じゃあ歌にしようということで、「き

みに伝えたい」という歌が誕生しました。ちょっとお聴きください。

(歌)「きみに伝えたい」(スライド12)

いま目の前に 広がる… きみに出会った喜びを感じて…  
ありがとう すてきな響き ありがとうって優しい色…  
未来に伝えよう 百年先まで… ありがとう ありがとう あり  
がとう

○水本 彼らの気持ちが、「百年先まで」という歌詞になって、歌が生まれました。

今のは開会式ですが、閉会式でも出させていただいて、いろんな方との出会いがありました。自分たちが中心になって、先ほども言いましたけども、社会における存在感を感じた大きな舞台でした。本当にありがたいなと思いました。

これは閉会式の様子ですが、選手の人たちがざっとなだれ込んできて、一つになって、そんな一コマがありましたのでちょっと見ていただければと思います。彼らが演奏して歌って、そこにみんながやってくるんですよ。ワクワクしました(スライド13)。



スライド12



スライド13

○水本 (閉会式の舞台上) この赤い服を着てる人たちは、手話スタッフの方もいるんですけど、心の病を持った人たちです。ちょっと止めましょうか。

僕のもう一つの仕込みが実はありまして、同じ障がいですが、これまで心の病を持った人たちは参加していなかったんですね。実行委員長ともお話をし、精神に障がいのある人たちも何かの形で参加できないかという話をし

たら、国体ですから、実は法律があって（全国障がい者）スポーツ大会には出られないんだと。で、何かの形でここ兵庫県から全国に発信できないか、そういう発想しませんかと、生意気にも話をさせてもらいました。その結果、手話コーラスで出るということになりました。彼らもカミングアウトになることを了解してたので、そのとき（本番舞台）、どこどこの施設と紹介してもらってもいいとお伝えして本番を迎えた、という裏話があります。当日は、みなさん、芸能人の人たちと一緒に舞台上でたど、喜んでました。

○水本 これはミュージカルの仲間と、あと、いろんなボランティアの団体ですね。

イルカさんとか南こうせつさんも一緒でした。このギターを持っているのは、御存知の方がいらっしゃるかもしれませんが、高石ともやさん、マラソンなんかで一緒に走ったりしてますね。こちらは本当はご退席される予定でしたがそのまま最後まで参加された皇族の方です。

（ビデオ）閉会式典からフォークジャンボリーのシーン

○水本 そのほかにもコンサートを通して、たくさんの方たちとの大きな出会いがありました。「生きかた上手」で皆さんもよく御存じの聖路加国際病院名誉院長の日野原先生とも、大阪での出会いをいただきました。ある大学の創立記念式典のこと、ご講演の後、私たちのコンサートを最後までご覧いただき下さっていたようで、演奏会のあと、ぜひ東京のみなさんにも、みなさんのパフォーマンスを見せてあげてくださいとおっしゃっていただきました。翌年（2004.9.25）、東京のトリフォニーホールでコンサートをさせていただきました。2006.6にも2回目のコンサートをさせていただきました（写真1、写真2）。そのとき支援くださった東京の方々とは、その後も私たちの定期演奏会に新社員のスタッフ研修として東京から駆けつけていただいたりと、メンバーとの友情は今も続いています。

このように、さまざまな出会いはメンバーの生きがいを生み、たくさんの関わりを通して大切なものを受け取らせていただきました。本当に一番幸せ、すてきな時代に生まれてきたという気持ちでいっぱいです。

今、世界ではいろんなことがあって、その中には嫌なこともいっぱい起こっています。でもやっぱり、私たちは今一番いい時代に生まれてきただろうと。この時代を潰すことなく続けていかないといけない、それは私たちの責任かなと思います。

彼らのつながりは練習から始まりましたが、音を重ねる日々は、やがて自分たちの心を重ねる日々となっていき、それは私たち（スタッフ）も、いつしか心を重ねていく日々になっていったんだと思います。

仲間がどれほど大事で大切であるか、そして、その中で、自分自身もどれほど大切であるかという、そういう意味も、存在も、一人一人が自分の体の中に感じ取っていった。だからこそ今があるんだろうと。一緒に歩んできた私たちも、幸せな人生を送らせてもらってきたという気持ちでいっぱいです。

(ビデオ) 1人のメンバーが突然亡くなる。メンバーは3日後に控えた京都コンサートで彼女のシーンを上映したいと提案してくる。京都コンサートを心待ちにしてきた人たちのことにスタッフが触れ、3日後のコンサートがいいのか、改めてお別れの会をした方がいいのか。みんなで話し合った結果、スタッフのことを信じて別に機会をもとうという意見が、みな賛成。



写真15



写真16

- 水本 こういう悲しい別れ、失ってしまうものもあるわけですが、でも、そのときに仲間がどれだけ大切なものかということをしかりと受けとめて、そういう話し合いはとても大事なことで、貴重な体験になったと思います。  
(写真15, 写真16)

時間の都合上流しませんが、半年後、このとき約束した、亡くなったともえちゃんのお別れの会を、彼女の家の近くの会場を借りて、お父さん、お母さんにも来ていただいて行いました。

大切な提案があって、今はできないかなとみんなで話しあったわけですから、半年後にその約束を実現（果たす）したこと、私たちも、みんなに寄り添っていくという気持ちを忘れてはいけないということだと思います。

そんなつながりを持ちながら、いつでも、どこでもほほ笑んでくれる人がいるんだという思いが「With You Smile」につながっています。

たくさんの小学生を初め中学生、高校生にも歌ってもらっています。うちの大学にはフレッシュマンキャンプというのがあります。1年生を連れて淡路島に行って、みんなで歌うことになってます。私は気恥ずかしいのですが、そのとき、学生から高校のときに歌った、中学生のコンクールで歌ったとかいろいろ話しかけてくれるのですが、それだけでもうれしくなります。



写真17 教会前での  
笑顔



写真18 ボネット神父と一男



写真19 サグラダファミリアでの  
コンサート

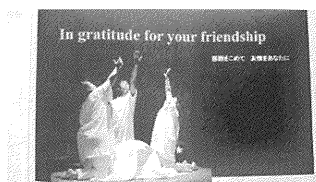
こちらは皆様御存じだと思います、サグラダファミリア教会（写真17）。ガウディの建築としても有名ですが、ここの地下の礼拝堂でコンサートをさせていただきました。ミサ曲ではない曲でのコンサートは初めてでしたが、みんなで歌って、コンサートの後に、地域の施設の方とも一緒になって楽しく過ごさせていただきました。（写真18、写真19）

写真にはできませんが、（バルセロナには）お医者さんや看護師さん、



ボランティアの方、関西テレビの同行という大所帯、総勢100人ぐらいで行きました。とても楽しくそしてここでもたくさんの人との出会いがありました。サグラダファミリア教会主任彫刻家の外尾さんにもお世話を頂き、その後日本に来られたときには会いに行ったりと、そういった関係が続いています。

その後私たちは、ニューヨークコンサートにも行くこととなりますが、コンサートの次の年に9.11テロが起きました。とてもショックでした。みんなの祈りをビデオメッセージとしてニューヨーク市長にお届けしました（スライド14）。



“ 祈り ”

2001.12 New York にビデオレター

スライド14

ビデオとしては最後になります。コンサートでは、予期していなかったことが起こることもあります。ニューヨークまで楽器を持っていくだけの財力はありませんから、向こうでレンタルするということになりました。ニューヨーク州立大学のパフォーミングアーツシアターや、ラマポ大学（ニュージャージー州）の講堂でコンサートをしました。日本で使っている楽器と同じものがなくて、小ぶりのサイズを借りました。そのためにいろんなハプニングが起きました。そのあたりからご覧下さい。

（ビデオ）ニューヨーク州立大パフォーミングアーツシアターでのリハーサルより。ソロ曲「秋のやさしさ」を演奏中、途中からわからなくなった一男。いつものビブラフォンとは音色も音域も異なり（狭い＝サイズも小さい）どうしても先に進めず、両手に持ったマレット（ばち）を強く握りしめ、下を向いてしまう一男（写真20）。

○水本 これはりハーサルです。少しパニックになってます。

(ビデオ) 会場にいるお母さんやスタッフも心配そうな顔。メンバーの香代さんが小さな声で「一男さん頑張って」。(写真21 写真22 写真23)

○水本 「一回弾くから聞いて」と言ってますね。みんなはじっと待っています。

(ビデオ) メロディーを思い出せなくなった一男に、水本がピアノでメロディーを弾く(写真21, 写真22)。ピアノによる演奏が終わったとき、「わかった!」、そのままビブラの演奏を始める。最後まで演奏し終えたとき、満面の笑みを浮かべてひと言「人を信じることは大切ですよ」と一男(写真24)。そしてすぐさま後ろを振り向き、舞台上で見守り続けた仲間に「どうもすみませんでした」と深々と頭を下げた。

○水本 (人を信じることは大切ですよ) 何げなく放った一男のひと言。聞き落としてしまいそうでしたが、彼はとても大切なことを教えてくれたと思います。ビデオの編集で、ここは落とさずに編集していただきました。ともすれば、無理かなどかかってしまうことは幾らでもあります、人生には。しかし、信じて待つことはとても大切な事だと教えられました。仲間も一人一人、それぞれに本番を前にして練習をしたところなのに、大丈夫かなとすごく心配しながらも、じっと見守っていました。お母さんもそうです。そして、彼らが証明してくれた、人を信じることがとても大切な事であること。しかも、その後に、「ありがとう」、「ごめんなさい、待たせました」。彼の心根が本当にすばらしいと思いました。そういう関係の中で、みんな、守られてきたんだと思います。信頼、そして友情、本当に大事なことだと改めて思いました。

これは、その日すぐできるものではありません。心を重ねてきたからこそ、裏切りのない信頼と友情がうまれたんだろうと思います。だから、一人ひとりの心が言葉となり、メロディーを生み出し、そうしてミュージカルが創られてきました(スライド15)。



写真20 うなだれる一男



写真21 頑張って／香代



写真22 見まもり／滋



写真23 見守るスタッフ／英美

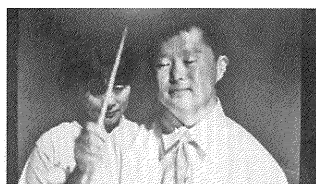


写真24 上手く弾き終え穏やかな笑顔に／一男



一人ひとりの心が言葉となり  
ミュージカルができあがっていく



Musical team LOVE  
自分が優しかったことを思い出します



音楽は神さまからの贈り物！

スライド15 心が言葉となって スライド16 Oh My LOVE スライド17 神さまの贈り物

自分が優しかったことを思い出します。いろんなことばが彼らから生まれ、メロディーが生まれ、今まで続いてきました。きっと、音楽は人間だけに与えられた、神様からの贈り物なのだろうと思います。(スライド16、スライド17)

**Our new life  
has just started.**

これからはじまる人生

スライド18

**すべての人たちが  
やがて迎える古い**

スライド19

**人を信じることの尊さ  
人を認めること  
受け容れること  
自分を与えること**

スライド20

これから始まる人生、これからも続く人生を考えると、全ての人たちがやがて迎える老いというものがあります。もちろん健康であることは生きていく上でとても重要なことです。それは間違いのないことです。誰も否定しないし、私もそうだと思います。また、私は心の病を持ってる人たちの生活のサポートもしていますが、健康であること、健康を維持すること（再燃しないこと）、そして、生活を支える経済的なバックも大事なことです。

でも、豊かな老いを迎えるために、大切にしたいことがあります。ご覧いただいていた彼らとの関わりから学んだ、目には見えないですが、とても大切なものがあります。それは“豊かな心”です。人を信じることの尊さ、人を認めること、人を受け容れること（受容という意味から、あえて「容」の字を使っています）、そして自分を与えること、豊かな心とは、そういう中にあるのではないかと思うのです。

彼らの、彼らとの、34年間を通した関係づくりから、思い至る不思議なパワーを最後にお伝えしたいと思います。

私の専門領域は精神保健福祉、ソーシャルワークですから、そういった観点から振り返ったとき、皆さんのレジユメの最後のページにある、バイスティックというアメリカの社会福祉学者が定義づけた7つの原則にいってきます。

### 7つの原則

- ①個別化の原則
- ②意図的な感情表現の原則
- ③統制された情緒的関与の原則

スライド21 バイスティックの原則 (3/7)

### ④受容の原則

- ⑤非審判的態度の原則
- ⑥自己決定の原則
- ⑦秘密保持の原則

スライド22 バイスティックの原則 (4/7)

一つ一つを意識して毎日することは難しいですし、また、一つ一つが独立しているわけでもなくて、私たちの生活の中での一つのかかわりの中に常に

こういった要素が深く関係しているということです。これを知っておくこと、ふだんから意識することで人と人とのかかわり、関係性が随分変わってくると思います。

私ごとですが、昨年暮れからことしにかけて新生児ラッシュでして、今は娘の孫がお兄ちゃんと一緒に3人で来てまして、毎日います。(お兄ちゃんの方は)生まれるまでは妹のことをとても楽しみにしていました。もちろん今も喜んでいますが、生まれてしばらく経つと、(今4歳、もうじき5歳ですが)自分の存在感が少し薄れてくるように感じるんでしょうね、やっぱり。意地悪とかは全くしませんが、自分よりも生まれてきた赤ちゃんが大事なんだなという気持ちを出したりします。そう思った時、急に泣き出したり、怒り出したりするわけですね。そんなとき、あまり長く続くと、ついつい親の方も、じじも、ばばも、もういいかげんにしてほしいなと思ってしまう時があります。そう思いつつ僕は、夜なんかに、ちょっと孫を連れ出して、男同士の話をしようかと言ったりして二人きりの時間を持つことがあります。

皆さんのところには詳しい説明があると思います。「個別化の原則」、「意図的な感情表現の原則」、「統制された情緒的関与の原則」、4つ目に「受容の原則」、先ほど受け容れると書きました。「非審判的態度の原則」、「自己決定の原則」、それから、「秘密保持の原則」、この7つがとても大切な要素です。

一つ一つを読めば当たり前のことですが、これを組み合わせて自然体で受け入れるのは、なかなか難しいことなんです。

「個別化」というのは、例えば同じような目的に思えても、決して一つじゃない、同じではないということです。求めるものは同じように思えても、一人一人の価値観や環境の違いが尊重されるべきだよということです。

「意図的な感情表現の原則」、これは先ほど孫の話で触れているんですが、いろんなかかわり、コミュニケーションの中で、様々な表情や表現をする場合があります。これ、自分ではなくて相手方、周囲のことです。その一つ一つが、実はそういった感情を表現したいという気持ちをそのときには持って

いる、そのありのままの状況を尊重するという事なんです。

ですから、私たちは一人一人の声に耳を傾けて、その一人一人の感情表現を大切にしたいという捉え方、これが意図的な感情表現の尊重で指摘されていることです。いつまで泣いてる、いつまで怒ってるんじゃないくて、そうした気持ちになってることを理解することが大切ということなんです。

「統制された情緒的関与」、今度は自分です。さまざまな場面・シーンで、全ての人は自分の抱えているさまざまな感情の表現を理解されたいという気持ちがありますから、そのような思いに応えるためには、聞き手側、受けとめ側が自分自身の感情をしっかりと自覚する必要があるということです。そして、その感情表現に適切に対応することが、とても大切になります。

「受容の原則」、さまざまな感情の表現をありのままの姿として受け容れて、一人ひとりを、一人の人として尊重し、全体にかかわること、受け容れる、受容することがとても大切ということです。受け容れられるということは、その人もまた、相手方を受け容れるということにつながります。お互いに受け容れる関係に発展していきます。自分自身が不快な思いで受けとめてしまうと、これは相手方に見せてないつもりでも相手方は敏感に感じてしまいます。ですから、どんな場面であっても、やっぱり、受容というのはすごく大事なことだと思います。

受容するということは、私も同じだよということではありません。ありのままの姿を理解して、そして受け容れるということです。

「非審判的な態度」、これはとても日常的に起こりがちなことだろうと、私自身も含めて反省すべき点がいっぱいあります。誰も自分を非難してほしいと思ってる人はいません。この人ならと思って、例えば、ある話をしたとたんに、それはこうじゃないのと言われてしまう、そんなことがあると思いません。

僕自身の幼いころの経験からいくと、あるテストで、とても悪い点数をとりました。今で言う欠点、60点以下をとって、おやじに、こっぴどくしられました。「おまえ、しっかりやってんのか」という感じで怒られました。

それで、次の試験はちょっと頑張りました。ちょっといい点をとりました。僕は、今度は褒めてもらえるなどと思っておやじのとこに行くわけです。言われた言葉は、「やすかったん違う」「みんなの平均点なんぼやった」という感じでしたね。もちろん平均点以上だったんで、それはそのときに言いましたけど。

この関係を例に考えてみると、何かを言ったときに、「すごい、よかったね、頑張ったね」という一言が最初にあることと、「それは、こうじゃなかったの」と言われることとは随分と違って、そういうのがケースワークといえますか、対人援助をしてるときもそうですが、いろんな打ち明けを面談で聞いてるとき、相談者は「それは、まずあなたがこうしないといけないじゃないの」と言われたいために来てるわけではなくて、自分のことを話したい、気持ちを伝えたくて来ている、そういう意味です。

それから「自己決定の原則」、これもさまざまなかかわりの場面ででてくると思いますが、言葉のごとく、こちらから決めて進めていくわけではなくて、自身で決めて進めていくということを促す、ということです。でも私は何もしない、あなたがしなさいということではありません。促していく。そこにはヒントを出したりすることもあるかもしれません。その時々、一人一人のそれぞれの状況を個別化してみて、同じような状況であっても、その人の求めている潜在的、あるいは顕在的なニーズに沿って自己決定を促していくことがとても大切な事なんだということです。

そうすることによって、私たちのミュージカルもそうですが、自分たちで決めてやっていくという姿勢は、自分たちが中心になっているということですから、達成感も違ってきますし、そこに自分自身の存在感、存在意義を感じることができるということにつながっていきます。

最後に、7番ですが、これにつきましては、今、個人情報保護の問題として様々なことが言われていますので、そちらの視点から考えてもよくわかることです。ここで言ってる「秘密の保持」は、何げない相談なり言葉は、あなたにだから言ってるということがいっぱいあるわけですよ。今言ったこ

と（知り合いに相談したこと）が、例えば、家に帰ってみたら親も知っていた。「あんた、こんなことがあったらしいね」と。近くの人に聞いてすでに知っていたことを、子供が帰ってきてでも知らん顔をしてると、「あんた、こんなこと…。きょう何かあったんじゃないの」と。

そうなると、子供は、子供に限らず私たちは、誰から聞いたんだろう。何で知っているんだろう。知ってるのはAさんしかいない。Aさんのこと、私はすごく信頼して言ったのにということに。すごくショックな気持ちになりますよね。ここだけの話はみんな好きで、1回聞くと、ここだけの話が全部つながって行って、また戻ってくるってこともよくあります。笑い話で済むときはいいですが、なかなかそういうことを考えると、秘密の保持というのは、信頼性の関係を保持していくためには非常に大事なことだと思います。

最後にバイステイックの原則について考えることになりました。一人一人が意識していくことで自分が変わる。自分が変わることによって相手も変わる。そして相手が変わると自分もまた変わる。幸せで豊かな人生を歩んでいけるのではないかと思います。

ちょうど、10分ほど前になりましたので、これで終わりたいと思います。  
ありがとうございました。